



主題名

体や心からのメッセージ

教材名

子どもだけれど

(出典:「ちゃいるどらいつ」平成17年度全国中学生人権作文コンテスト京都大会応募作品より引用)

人権学習の視点

個別の視点「子どもの人権問題」

主題・教材について

世界では住む場所がなかったり、学校に行けなかったり、戦争の中で暮らしたりするなど、子どもの人権が守られていない状況がある。その状況を知るとともに、日本では社会が複雑化・多様化する中、児童虐待やいじめなど、一人の人間としての人権が脅かされるということが起こっている。この教材では、虐待やいじめを我慢しなくてもよいこと、一人一人の人権が尊重され幸せに暮らす権利があるということを知らせ、お互いの人権を守るために、相手の気持ちを思いやり、一人一人を大切にしようとする態度を養いたい。

ねらい

世界や日本の子どもの人権にかかわる状況を知る中で、子どもだからといって、いじめや虐待を我慢する必要はないことを知り、一人一人が大切にされる社会をつくろうとする態度や行動力を養う。

本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	○DVD「子どもだけれど」を見て考えさせる。	一斉	○DVD「子どもだけれど」を見る。 ●①世界では②日本では	○世界と日本の子どもの状況がつかめるように、①世界では②日本では、いったん区切って視聴する。	DVD 「子どもだけれど」
展開	DVD「子どもだけれど」は、どんな場面なのだろう				
	○DVD「子どもだけれど」の子どもの状況を考え発表させる。	一斉	○映像から子どもの状況について思ったことを発表する。 ●世界 ●日本	○世界の子ども達の人権にかかわる状況を知るとともに、日本ではいじめや虐待の問題があることに気付かせる。	資料 「子どもだけれど」
	「メッセージ」の子ども気持ちを考えよう				
展開	○実際にいじめを受けた子どもの作文(P.50)を読み聞かせる。	一斉	○自分の考えた気持ちと、いじめを受けた子どもの気持ちと比べながら聞く。	○自分のこととして考えられるようにする。	ワークシート 問1 問2
	○自分のできることを考えワークシートに書き、発表させる。	個別 一斉	○作文を書いた児童にメッセージを書き、発表する。 ●何と声をかけますか? ●どんなことをしますか?	○作文を通していじめを受けた子の気持ちを感じ取れるようにする。 ○メッセージを書くことで、身近に起こるいじめをなくすために積極的にかわろうとする意識を高めさせる。	
まとめ	「子どもの人権」について考えよう				
	○「子どものくせに」を読み聞かせ、子どもにも人権があることを理解させる。	一斉	○「子どものくせに」を聞き、子どもにも人権があることを知る。	○子どもであってもいじめや虐待は許されないということを理解させる。	
まとめ	○子どもも、一人一人が大切な人間であることを理解させる。	一斉	○本時の学習の感想を交流する。	○自分のこととして考えられるようにし、日常生活に生かせるようにする。	

評価

世界や日本の子どもの人権にかかわる状況を知る中で、子どもだからといって、いじめや虐待を我慢する必要はないことを知り、一人一人が大切にされる社会をつくろうとする態度や行動力を養うことができたか。